

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	キャリアガイダンス（688）				教 科 区 分	一般教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	大内 香那子				実 務 経 験 内 容	
	週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
授 業 形 態	演 習	教 室	ライブ配信	補 助 教 員	各担任	
就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
教 科 書 材	仕事力を身に付ける２０のステップ					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1回 サンクスドリルの意義と使い方 2～3回 就活とコミュニケーションのつながりを理解する 4～6回 意見をつくる力 7～9回 聞く力・話す力 10～12回 自己理解 13回～15回 仕事理解 16回 サンクスドリル基礎学力テスト 【後期】 1～3回 自己PR作成 4～6回 先輩トークセッション 7～9回 就活成功3ヶ条 10～12回 選考基礎（ビジネスマナー、敬語等）、書類選考（ガクチカ作成体験） 13回～15回 面接（個人・グループディスカッション） 16回 サンクスドリル基礎学力テスト	

評価コード	11	
評 価 方 法	・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	コンピュータ基礎（690）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	松田 栄代、林 秀聡				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
基本情報技術者試験の合格を目標とする科目である。基本情報技術者試験は、情報システム開発・運用や利用などの広範な業務を担当する情報処理技術者に対し、その基礎レベルともいべき基本的な知識や情報技術に関する能力を評価する試験である。その出題範囲の中で特に、コンピュータを学習する上で必要となるハードウェア・ソフトウェア及び情報システム戦略・マネジメントの基礎知識を習得する。						
授 業 形 態	講 義	教 室	154教室	補 助 教 員	なし	
授業は講義形式で行い、随時練習問題を実施する。 また、理解度の確認を行う目的で、定期的に小テストを随時実施する。						
教 科 書 材	ITワールド／IT戦略とマネジメント					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【前期・ITワールド】 1～2回 コンピュータの基本構成、問題演習 3～7回 コンピュータのデータ表現、問題演習 8～10回 中央処理装置と主記憶装置、問題演習 11～13回 補助記憶装置、入出力装置、問題演習 14～16回 情報処理システムの処理形態、問題演習 17～19回 高信頼化システムの構成、問題演習 20～22回 情報処理システムの評価、問題演習 23～24回 ヒューマンインタフェース、マルチメディア、問題演習 25～26回 ソフトウェアの分類、OS、問題演習 27～28回 プログラム言語と言語プロセッサ、ファイル、問題演習 29～32回 基本情報技術者試験午前対策演習 【前期・IT戦略とマネジメント】 1～4回 企業と法務、問題演習 5～6回 経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ、問題演習 7回 情報システム戦略、問題演習 8～11回 プロジェクトマネジメント、問題演習 12回 サービスマネジメント、問題演習 13回 システム監査と内部統制、問題演習 14～16回 基本情報技術者試験午前対策演習		

評価コード	3	
評 価 方 法	・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	アルゴリズム (723)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	伊藤 七海				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
将来のITエンジニアとして、プログラム構築の根幹となる基本的な考え方（アルゴリズム）は必須である。本授業では、フローチャートや擬似言語といった記述方法を用いて、この基礎的な考え方を自由自在に表現できるようになることを目指す。そして、このアルゴリズムの学習を通じて、プログラミングスキルの向上へとつなげていく。また、同時に国家試験（主に基本情報技術者試験）を想定した問題演習を行うことで、合格を目指す知識の定着を狙う。						
授 業 形 態	講 義	教 室	154教室	補 助 教 員	なし	
テキストを使用し、座学形式で実施する。理解度の確認を行う目的で、問題演習を随時実施する。理解度を深めるための授業資料（データ）も扱うので、ノート型パソコンを使う。						
教 科 書 材	擬似言語で学ぶアルゴリズム，インフォテック・サーブ貸与ノート型パソコン					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～3回 授業ガイダンス、アルゴリズムの概要 4～6回 流れ図と基本制御構造、問題演習 7～9回 変数、定数、カウンタ、問題演習 10～12回 擬似言語、関数、問題演習 13～15回 集計、二重ループ、複合条件、問題演習 16～18回 一次元配列、二次元配列、問題演習 19～21回 線形探索法、二分探索法、問題演習 22～24回 基本選択法、基本交換法、問題演習 25～27回 データ構造（リスト、スタック、キュー）、問題演習 28～30回 オブジェクト指向とクラス、問題演習 31～32回 総合演習、定期試験について	

評価コード	3
評 価 方 法	・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	プログラミング技法Ⅰ（724）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	荻沼 隆				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	6	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
将来のITエンジニアとして、プログラミングは必須である。本授業では、Java（プログラミング言語）を学習する。今使われている多くの言語が、オブジェクト指向プログラミングを実現しており、Javaを学ぶことで、オブジェクト指向の考え方を身に付け、卒業後社会で通用するプログラマを目指す。また、基本的なアルゴリズムも同時に習得し、1年次下期または2年次上期の基本情報技術者試験合格も目指す。						
授 業 形 態	講 義	教 室	154教室	補 助 教 員	なし	
授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにノート型パソコンを使った実習も行う。						
教 科 書 材	スッキリわかるJava入門 第4版 オラクル認定資格教科書 Javaプログラマ Bronze SE スピードマスター問題集 試験番号1Z0-818対応 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～2回 プログラミング環境構築、Javaプログラムの書き方（プロジェクト、クラスファイルの作成） 3～4回 コンソールへの出力、変数宣言、リテラル、演算、演習 5～8回 条件分岐(if文、switch文)、演習 9～12回 繰り返し(for文)、演習 13～17回 繰り返し(while文、do-while文)、演習 18～21回 二重ループ、無限ループ、演習 22～25回 配列、演習 26～28回 多次元配列、演習 29～31回 メソッド、演習 32～35回 複数クラス構成、演習 【後期】 36～41回 プログラム作成演習1 42～47回 プログラム作成演習2 48～53回 プログラム作成演習3 54～59回 プログラム作成演習4 60～65回 プログラム作成演習5 66～71回 プログラム作成演習6		

評価コード	3	
評 価 方 法	・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	システムデザインⅠ（841）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	浅井 英臣				実 務 経 験 内 容	
	週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次	
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
システムを構築するために必要な知識を習得する。ウォーターフォール型開発、アジャイル型開発など、各種システム設計技法の基礎知識を座学中心で学んでいく。システムエンジニアとしての知識習得を目的とするとともに、基本情報技術者試験合格をはじめとした、情報処理技術者試験合格も目指す。						
授 業 形 態	演 習	教 室	154教室	補 助 教 員	なし	
テキストを基に主に座学形式で実施し、システムエンジニアとしてのシステム設計に関する基本スキルを身につける。また、国家資格取得を視野に入れた形の問題演習も同時に行う。						
教 科 書 材	ITワールド／IT戦略とマネジメント					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～ 6回 システム開発技術（SLCP開発プロセス）、演習問題 7～12回 ソフトウェア開発技術、演習問題 13～16回 基本情報技術者試験対策演習 【後期】 17～22回 システム開発環境、演習問題 23～28回 Webアプリケーション開発、演習問題 29～32回 総合演習		

評価コード	11	
評 価 方 法	・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	データベース I (728)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	佐々木 伸之				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	1	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
コンピュータシステムに不可欠であるデータベースについて、その基礎知識を学ぶとともに、データベースを操作する言語であるSQLについても学ぶ。また、データベースの管理等の手法についても学び、システムエンジニアとして必要とされるスキルを身につける。国家資格である基本情報技術者試験取得を目指すとともに、上位資格につながる知識も修得する。						
授 業 形 態	講 義	教 室	154教室	補 助 教 員	なし	
テキストを使用し、座学形式で行う。国家資格や各種検定取得も視野に入れながら、問題演習も実施する。						
教 科 書 材	ITワールド					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：1 単位時間／回 【前期】 1～ 3回 データベースの概要、問題演習 4～ 6回 SQL、問題演習 7～ 9回 いろいろなデータベース、問題演習 10～16回 基本情報技術者試験対策演習	

評価コード	3	
評 価 方 法	・ 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	データベースⅡ（729）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	笹岡 寛（予定）				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
データベースⅠでSQLについて学んだ。 データベースⅡではSQLをさらに深く、かつ実践的に学び、プログラマとして必要な技術の取得を目指す。						
授 業 形 態	講 義	教 室	154教室	補 助 教 員	なし	
テキストを使用し座学形式で実施。貸与している各自のノートパソコンを使い、実際にSQLを入力・実行することで動作を確認する。						
教 科 書 教 材	スッキリわかるSQL入門 第3版 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【後期】 1～ 6回 SQLを始めよう 7～18回 SQLを使いこなそう 19～30回 データベースの知識を深めよう 31～42回 データベースで実現しよう 43～48回 模擬問題	

評価コード	3
評 価 方 法	・ 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	ネットワーク（712）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	山田 早姫				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
本科目では、インターネットやローカルエリアネットワーク（LAN）など、ネットワーク技術の基本的な構造と仕組みを理解することを目指す。ネットワーク技術は現代社会において不可欠なものであり、学校、職場、自宅など日常生活の多くの場面で利用されている。この科目を通じて、学生はネットワーク技術の基礎知識を深め、将来の学習や職業生活において役立つスキルを身につけることを期待する。さらに、国家試験や各種検定試験において出題されるネットワーク関連の問題に対する理解を深め、試験対策も行う。						
授 業 形 態	講 義	教 室	154教室	補 助 教 員	なし	
テキストを使用し、座学形式で実施する。理解度の確認を行う目的で、問題演習を随時実施する。理解度を深めるための授業資料（データ）も扱うので、ノート型パソコンを使う。						
教 科 書 材	ITワールド、インフォテック・サーバ 仕組み・動作が見てわかる図解入門TCP/IP、SBクリエイティブ 貸与ノート型パソコン					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～2回 授業ガイダンス、インターネットの概要、問題演習 3～4回 ネットワークアーキテクチャ(OSI、TCP/IP)、問題演習 5～6回 LANの基礎技術、その他のLAN技術、問題演習 7～8回 ネットワークの構成要素・基礎技術、問題演習 9～10回 ネットワーク管理（運用・手法）、問題演習 11～14回 試験対策 15～16回 総合演習、定期試験について 【後期】 17～18回 応用的なネットワーク、問題演習 19～20回 物理層に関連する技術の詳細、問題演習 21～22回 データリンク層に関連する技術の詳細、問題演習 23～24回 ネットワーク層に関連する技術の詳細、問題演習 25～26回 トランスポート層に関連する技術の詳細、問題演習 27～28回 アプリケーション層に関連する技術の詳細、問題演習 29～30回 試験対策 31～32回 総合演習、定期試験について	

	3
評 価 方 法	・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	Webデザイン（727）				教 科 区 分	専 門 教 育 科 目
					必修 / 選 択	必 修
担 当 教 員	朝 倉 奈 美、野 畑 祐 子				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
Webサイトの制作に必要な知識（HTMLとCSS）を学びます。 Webサイトの構造を表記するHTMLではユーザーが入力する画面（フォーム）記述方法、デザイン部分を表示するCSSではモバイルサイトに対応したレイアウトの記述方法も理解していただきます。						
授 業 形 態	実 習	教 室	164教室	補 助 教 員	なし	
授業はテキストに従って進める実習形式で行い、理解度を深めるためにオリジナルページの制作も行います。 また、授業毎に提出を行い教員側で理解度を把握します。						
教 科 書 材	スラスラわかるHTML&CSSの基本 SBクリエイティブ株式会社（毎授業で使用） 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1回 HTMLの基礎、制作の準備と基本のHTML 2回 見出し、段落、リスト 3回 リンク、パスの理解 4回 画像の挿入 5回 ページの部分ごとに要素をまとめる 6回 class属性、コメント文 7回 2ページ目以降の作成準備 8回 テーブル 9回 フォーム 10～13回 オリジナルページの作成 14～16回 小テスト、解説 【後期】 17～18回 前期の復習 19～22回 CSSの基本の書式 23～25回 CSSでページのスタイルを調整 26～27回 フロート、テーブル、フレックスボックス 28～29回 フォームのスタイル 30回 モバイルサイト 31～32回 オリジナルページの作成		

評価コード	13	
評 価 方 法	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	ゼミナール I (936)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	伊藤 七海				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
前期に学んだ内容を基に、GUIアプリケーションの制作を行うことにより、プログラミングスキル向上を図る。						
授 業 形 態	実 習	教 室	154教室	補 助 教 員	なし	
テキストおよびノートパソコンを使用し、GUIアプリケーションの制作が可能なプログラミング言語であるC#を用い、プログラム作成を中心に授業を実施する。						
教 科 書 材	作って覚えるVisual C# 2022 デスクトップアプリ入門 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【後期】 1～2回 Windows用アプリケーションの基礎 Visual Studio Community 2022の基本操作 3～4回 プログラム作成の基本を覚える 5～8回 「タイマー」の作成 9～12回 「付箋メモ」の作成 13～18回 「今日の占い」の作成 19～24回 「間違い探しゲーム」の作成 25～28回 オブジェクト指向プログラミングの考え方 29～34回 「CSVの読み書きアプリ」の作成5 35～40回 「Slack投稿アプリ」の作成 41～48回 「間違いボール探しゲーム」の作成	

評価コード	13
評 価 方 法	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名		Windows 実習 (192)				教科区分	専門教育科目
						必須 / 選択	必須
担当教員		新美 あゆみ、野畑 祐子				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数		1年次	2年次	3年次	4年次		
		2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標							
パソコンの基本操作からExcel・PowerPointの様々な機能や活用方法など基本的技術と知識を講義します。就職してから役立つような、日々の業務で作成する書類やプレゼンテーションの資料、売上データのグラフなどを作成することにより、単にパソコンが使えるだけでなく、業務の中でパソコンスキルを活かす方法を実習形式で学習します。テキストの内容終了後には、身につけたOfficeソフトの基本的技術と知識を活かし、実際の仕事で応用が利くよう、実務をイメージした補足資料を配付し、演習中心に授業を進めます。							
授 業 方 法		実 習	教 室	154教室	補 助 教 員	なし	
授業は実習形式であり、実習は、配布しているノート型パソコンを使用する。							
教科書材		Microsoft Office Specialist MOS PowerPoint 365&2019 対策テキスト& 問題集 Microsoft Office Specialist MOS Excel 365&2019 対策テキスト& 問題集 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間/回 【前期】Excel 1回 テキスト事前学習 Excel基本操作 2～ 4回 出題範囲2_セルやセル範囲のデータの管理 5～ 7回 出題範囲4_数式や関数を使用した演算の実行 8回 出題範囲3_テーブルとテーブルのデータの管理 9回 出題範囲5_グラフの管理 10回 出題範囲1_ワークシートやブックの作成と管理 11～13回 模擬演習 14～16回 総合演習 【後期】PowerPoint 1回 Windowsの基本的な使い方・Officeソフトの基本操作 2回 スライド作成の基本操作 3回 出題範囲3_テキスト・図形・画像の挿入と書式設定 4～ 5回 出題範囲4_表・グラフ・SmartArt・3Dモデルの挿入 6回 出題範囲5_画面切り替え・アニメーションの設定 7回 出題範囲2_スライドの管理 8～ 9回 出題範囲1_プレゼンテーションの管理 10～12回 模擬演習 13～16回 総合演習	

評価コード 13

評 価 方 法	
	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	資格対策（700）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	安田 誠				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	4	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
将来のITエンジニアとして、ITの知識・技術の習得は必須である。本授業では、1年次から4年次にかけて、目標となる資格試験の合格を目指すための講座、問題演習を行う。特に国家試験である情報処理技術者試験の合格を目標とする。そのため、前期では情報処理技術者能力認定試験2級1部、修了試験の合格を目指す。 後期では、Microsoftが提供するOffice製品の使用スキルを計るベンダー試験であるMOSの合格を目指す。						
授 業 形 態	演 習	教 室	154教室	補 助 教 員	なし	
授業は問題演習や模擬試験での学習を主とするが、適宜ノート型パソコンを使った実習も行う。						
教 科 書 材	貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～ 4回 セキュリティ技術について 5～18回 情報処理技術者能力認定試験2級1部 過去問題演習 19～28回 修了試験 過去問題演習 29～32回 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験 過去問題演習 【後期】 33～46回 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験 過去問題演習 47～60回 MOS試験 模擬試験演習 61～64回 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験 過去問題演習	

評価コード	11
評 価 方 法	・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。